

氏名	岩崎 愛美	学生証番号	16A3004
学部／研究科	法学部	学科／専攻	国際政治学科
学年	3年		
派遣国	アメリカ	派遣都市	テキサス州ウェーコ
出国年月日	2019年2月3日	帰国年月日	2019年3月2日
法政大学との共催団体名（受入団体名）	ベイラー大学		
主な活動内容	日本語クラスの補佐、スピーチコンテストのボランティア、フィールドワーク		

(1) 課題設定 【出発前】

- ▶ プログラムに参加する「目的」と「達成目標」を具体的に述べること。

私がこのプログラムに参加する目的は主に2つあった。1つ目は、日本語及び日本国を客観的に理解することである。私は日本で生まれ、日本で生まれ育った。外国語として英語を学び、英語を使ってグローバルな社会へと飛び立ちたいと考えている。海外に出た際に自分は“日本人”だということを実感させられる。日本はいったいどのような国なのか、日本語とはどういう言語なのかを尋ねられることが多い。しかし、自分は思っている以上に自分の国について客観的に見たことがない。自分の生まれ育った国ゆえに、当たり前のことや主観で判断していることが多い。将来社会でグローバルに活躍するためにも、自分のルーツについてもっと理解したいと考えた。

2つ目は、アメリカの大学生と交流し、彼らの価値観や考え方を理解することである。現地では、フィールドワークがあり、自分の研究テーマを決めリサーチする。リサーチするには、現地の学生や教授等にインタビューやアンケートを行う必要があった。このプログラムを通し、自分の探求心や英語力、コミュニケーション能力など様々な自分の力を向上させたいと考えた。

具体的な達成目標は、ベイラー大学の学生と近い距離で交流をする努力をすることだった。授業外でもSNSでの交流や、課外活動の参加、余暇活動での交流等を積極的に行うことを目標とした。

(2) 事前調査活動内容 【出発前】

- ▶ 活動国（地域）の特徴、受け入れ先の企業（団体）、職種・業務内容について事前に調査したことを項目立てて述べること。併せて、参考文献等を付すこと。

【活動国及び地域の特徴】

ベイラー大学のあるテキサス州ウェーコは、ダラスから車で1時間半ほどの距離に位置しておりテキサス州のほかの都市に比べると小さい街である。気候は南部に位置しているため夏は暑く、冬でも比較的暖かいが、寒暖差が激しい。（The official website of Waco, Texas より）

【ベイラー大学の特徴】

ベイラー大学は米国で最大のキリスト教プロテスタント宗派である南部バプテスト派によって設立された私立大学であり、キリスト教精神に基づいた教育を特色としている。キリスト教に基づき、ボランティア活動も多く行われている。（Baylor University website より）

【業種・業務内容について】

日本語クラスは主に初級・中級・上級に分かれており、その他にビジネス日本語や日本の映画を見て学ぶクラスもある。日本語の major はないため皆 major ではなく minor として日本語のクラスを受講している。提携校は西南学院大学と法政大学の2つであり交換留学が行われている。2019年からは東北大学が加わる。クラス外でも、Baylor Japanese Students Association という日本文化に興味を持った学生が集まる団体や、Japanese conversation time（お茶の時間）という毎週1時間お茶を飲みながら、日本の遊びをすることや、おしゃべりする時間が設けられている。（Baylor University website より）

(3) 現地における活動内容 【活動中】

- 活動内容を項目ごとにまとめること。

【日本語クラスの補助】

日本語クラスの補助は主に、会話練習の相手と文化紹介プレゼンテーションであった。会話練習では原稿が決まっており、単語を少し変えることは可能だが、基本的には学生の習った範囲の文法と語彙しか使うことができない。学生の日本語が間違っている場合は、簡易的に説明したうえで分からないことは先生に聞くように言う。ここでは、私たちインターン生は日本語教育の素人である為、曖昧な答えやごまかしはいけない。

文化紹介プレゼンテーションは、週1回程度クラスの始めに5分程度で行われる。私は、日本の食生活・電車・学生などの内容を英語で紹介した。プレゼンは事実に加えて課題や問題点なども含めることで学生に考えてもらえるようにすることを指示された。文字をあまり入れずにヴィジュアルで伝えるように心掛けた。

【日本語スピーチコンテストのボランティア】

第2週目の週末にダラスで日本語スピーチコンテストが行われた。ベイラー大学からは4人の学生が参加した。インターン生2名と法政大学からの派遣留学生2名で大会の会場運営のボランティアを行った。様々な学校の先生方と協力し、受付や案内などを担当した。

【フィールドワーク】

フィールドワークでは、「ベイラー大学の学生の社会貢献意識」についての研究を行った。ボランティア活動が特徴的な学校であるベイラー大学では、学校の方針・キリスト教が彼らのボランティア活動に影響されているのではないのかという仮説を立て、それを検証した。大学にいる学生にアンケートを答えてもらうことや、ボランティア団体等にインタビューを行った。後にアンケートやインタビューから得たデータを分析し、パワーポイントにまとめた。それを、最終週に15分程度にまとめ多くの学生の前でプレゼンテーションをした。

(4) 振り返りおよび事後研究 【帰国後】

- プログラムへの参加を通じて、(1)の課題設定がどの程度達成されたか、その成果と併せて具体的に述べる。また、今回達成できなかったことに触れながら、今後の課題とその取り組みについて述べる。
- 活動を通じて得られた、興味・関心についての事後調査・研究内容について述べる。

達成目標は、7割程度しか達成されなかったと感じている。まず、日本語クラスにおいて私たちインターン制は日本語を教えること自体は任されない。しかし、学生の疑問に答えることや、会話の相手になることがあった。私の目標は、学生とより近い距離で関わることであったが、私たちに求められていたのはそれだけではなかったと悟った。想像以上に自分が日本語を客観的に見ていなかったかを感じた。さらに、自分の国についての知識がいかに乏しいかを悟った。学生との交流は、目標通り積極的にかかわることができ、様々な活動に参加することや、イベントを自ら開催することもできた。ただ、そのような表面上の交流はインターンシップで学ぶことでは足りない。私たちインターン生は、学生と関わりながらも、日本について理解してもらうこと、与えられた仕事を忠実に進めていくこと、その責任を果たすためにも日本人“代表”として自覚を持つべきである。その点において、私はまだまだ力不足であったと感じている。特に、日本語の理解や日本社会についてもっと事前に勉強しておくべきであったと思う。出国直前は、VISAの取得やフィールドワークの推敲、試験勉強で手一杯になってしまう。選考を通過した時点から、取り組む必要があったと思う。ただ、現地でもできることはたくさんあるので、現地でもインターネットや図書館で調べることは可能である。

今回のプログラムでたくさんの方々にお世話になった。一番印象的だったのは、何人かの学生に「日本に行ったときにたくさんの日本人にお世話になったからね」と言い、恩返しだとして私たちに尽くしてくれた。今回のプログラムで人の温かさを非常に感じた。海外では慣れないことが多く、誰かの助けが必要である。今回もらった優しさを今度は私が日本で留学生や、学生に返していくこと、遠くからでもベイラー大学に貢献できるような活動をしていきたいと感じている。

以上



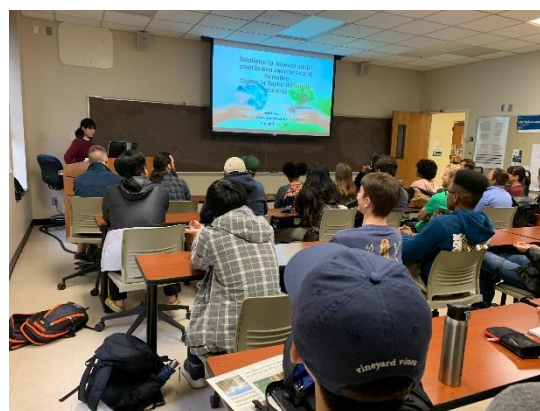
授業で文化紹介のプレゼンをしました。



日本語クラスの授業風景です。



日本語スピーチコンテストのボランティア



フィールドワークのプレゼンテーション